

ねぎ

科名：ゆり科
 原産地：中国西部
 生育適温：15～30℃
 漢字：葱
 発芽適温：15～20℃

◎ 栽培カレンダー

作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春まき栽培				種まき ○		植付け ×			収穫 □□□□			

◎ 栽培に必要なもの(10㎡あたり)

ねぎ種……………15ml
 肥料:堆肥……………30kg
 苦土石灰……………1.5kg
 元肥用化成肥料(10-8-9)0.8kg
 追肥用化成肥料(10-2-9)1.6kg



畑づくり

- ・ねぎはよく肥えた土を好むので、堆肥等の有機質を多く施して栽培します。ただし、肥料を一度に多く施すと、肥料あたりしやすいので、追肥中心とし少量づつ分けて施用します。
- ・酸性土壌に弱いので、種まきの2週間前に、堆肥や苦土石灰を施用して、土づくりを行っておく必要があります。
- ・植付け前に元肥を施し、幅90cmのうねをたてます。水はけの悪い畑では、高うねとします。

育苗

- ・4月上旬に苗床に種をまきます。苗床は畑10㎡当たり1.5㎡程度必要となります。
- ・苗床は、あらかじめ畑と同じように土づくりを行い、十分にかん水しておきます。
- ・10cm間隔にすじをつけ、1cm間隔に種をまきます。土をかぶせ、軽く押さえておきます。
- ・発芽がそろったら、密生部を間引いて2cm間隔にします。



広島市特産「観音ねぎ」

明治の初め、京都から九条ねぎの種を持ち帰ったのが始まりで、その後、西区観音地区で改良が重ねられ、「観音ねぎ」として栽培されています。特長としては、普通の葉ねぎより白色の部分がやや多く、非常に柔らかです。また、香りや風味があり、すきやきや鍋物にぴったりのねぎです。

観音ねぎなどの葉ねぎは、西区の他に安佐北区、安佐南区など市内の各地域で栽培されています。

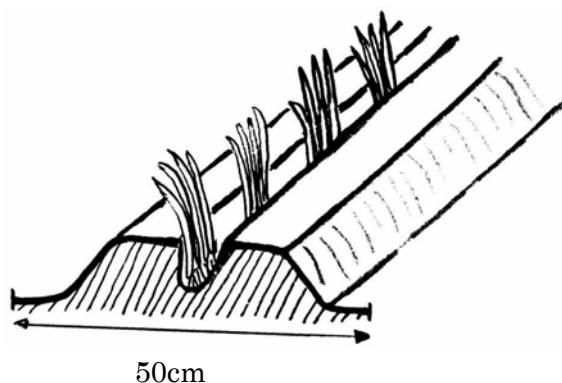
また、安佐北区では、根元の部分が赤い太ねぎである「赤ねぎ」が栽培されており、やわらかさ、甘さ、独特の香りから、注目されています。

植付け

うね幅 50cm

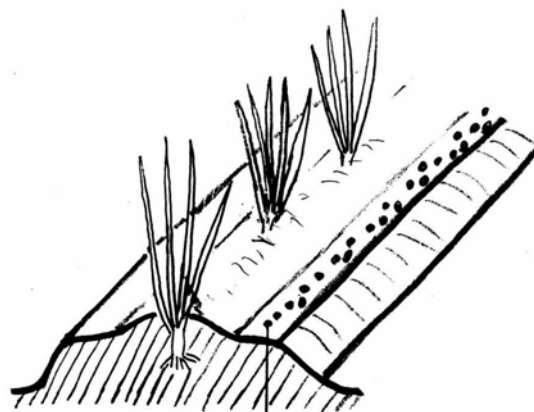
株間 5~6cm間隔に 4 本植え

- ・ 苗は根元の径が 5~6mm、長さ 25cm くらいのもので使います。
- ・ 細いくわなどで深さ 10cm くらいの溝をきり、ねぎをまっすぐに立てて植え付けます。
- ・ 根が浅くかくれる程度に土をかけかん水します。



追肥と土寄せ

- ・ 追肥は 20 日に 1 回くらいの割合で、300~400g をうねの肩の一方に施します。次回の追肥は反対側の肩にし、交互に施すようにします。夏は少なめ、秋冬どりで多めに施します。
- ・ ねぎは根が浅いため、追肥した土をすぐに株もとに土寄せすると肥料あたりしやすいものです。追肥してから 1 週間くらい肥料と土をなじませた後、肥土を株もとに寄せます。
- ・ 白ねぎは、葉の分かれめまで深く土寄せしますが、葉ねぎは倒れない程度の土寄せとします。



追肥、うねの肩に交互に施す

収穫

- ・ 生育中いつでも間引いて利用できますし、葉だけをつんでも次の芽が出てきます。50cm 程度で収穫するのが一般的ですが、用途に応じ、適当な大きさに収穫します。
- ・ 冬に収穫する時は、洗わずにどろつきねぎでおいておけば日持ちがよくなります。



ねぎは、カロチンやビタミンB₁、B₂が含まれるほか、ビタミンCはみかんなみに含まれています。刺激成分の硫化アリルとビタミンB₁が結合して吸収を助け、消化を促進します。このため、風邪に効果があるといわれています。

原産地の中国では、紀元前から栽培され、体をあたため、疲労を回復する薬用植物として珍重されていました。